

令和6年度 第1回 鳥取市生活交通会議
議 事 要 旨

1. 日 時 令和6年5月21日（火） 15:30～16:30

2. 場 所 鳥取市民交流棟2階 多目的室2・3

3. 出席者 (下記のとおり)

○会 長	[学識経験者]	鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻教授	谷 本 圭 志
○副会長	[鳥取市]	都市整備部長	山 根 陽 一
○委 員	[住民・利用者]	市自治会連合会 (旧鳥取市、国府町、福部町)	西 原 牧 夫
		〃 (河原町、用瀬町、佐治町)	小 谷 繁 喜
		市老人クラブ連合会 (旧鳥取市、国府町、福部町)	藤 田 祐 治
		〃 (河原町、用瀬町、佐治町)	西 尾 寛 茂
		〃 (気高町、鹿野町、青谷町)	尾 崎 満 信
		市連合婦人会	外 山 照 野
	[NPO法人]	鳥取市社会福祉協議会 地域福祉課長	松 本 美智恵
	[事業者]	日ノ丸自動車株式会社 営業部次長 (代理)	田 中 雅 之
		日本交通株式会社 バス営業部次長	山 本 高 広
		西日本旅客鉄道株式会社鳥取鉄道部運輸科長	谷 口 雅 則
	[事業者団体]	鳥取県ハイヤータクシー協会副会長	岡 周 一
	[事業者労組]	私鉄中国地方労働組合日ノ丸自動車支部執行委員	
		鳥取分会執行委員長	中 村 和 博
	[鳥取市]	福祉部長	藏 増 祐 子
	[中国運輸局]	鳥取運輸支局 首席運輸企画専門官	大 林 正 明
	[警察]	鳥取警察署 交通第一課長	竹 矢 秀 雄
	[鳥取県]	輝く鳥取創造本部中山間・地域振興局交通政策課長	野 坂 明 正
○事務局		鳥取市都市整備部交通政策課 (宮谷、森本、伊藤、坂本)	

【欠席】1名

4. 次 第

- 1) 開会
- 2) 会長・副会長選出
- 3) 会長挨拶
- 4) 議事

【案件1】「NPO法人まーる」の更新登録について

【案件2】令和7年度鳥取市地域内フィーダー系統確保維持計画について

5) 報告事項

- ①鳥取市生活交通創生ビジョンに関する取組状況について
- ②AIオンデマンド乗合交通の実証運行（再開）について
- ③自動運転実証運行の取組状況について

6) その他

- ・鳥取市公共交通空白地有償運送運行管理体制の見直し
- ・『地域公共交通のり・デザインに向けて』について

7) 閉 会

5. 議 事 概 要

【案件1】「NPO法人まーる」の更新登録について

NPO法人まーるが運行している福祉有償運送の更新登録について協議。

→NPO法人まーるが資料1に基づき説明し合意された。

(質問・意見)

特になし

【案件2】令和7年度鳥取市地域内フィーダー系統確保計画について

国庫補助を受けている米里線・雨滝上地線について、引き続き補助を受けるため、フィーダー計画（事務局案）を提示し、内容について協議。

→事務局が資料2に基づき説明し、合意された。

(質問・意見)

特になし

【報告①】鳥取市生活交通創生ビジョンに関する取組状況について

鳥取市生活交通創生ビジョンに掲げて推進する取組の実績と令和6年度の取組概要について報告。

→事務局が資料3に基づき報告をした。

(質問・意見)

【委員（県）】 市以外の事業について情報提供。鉄道とバスの共通パスを令和5年度より改良して令和6年度から企画し販売。お試しで使っていただきたい、関係する方へのお知らせもお願いしたい。

【報告②】 AI オンデマンド乗合交通の実証運行（再開）について

令和6年5月20日から運行再開したAIオンデマンド乗合交通実証運行について事務局が報告。

→事務局が資料4に基づき報告した。

(質問・意見)

【委員】 旅客の運送だけではなくて物の運送とか、昼間はなかなか人が動かない時間帯なのでその時間帯をどうするのが永遠の課題なのかもしれない。この課題をどうにかできたらいいと思う。お客を運ぶとしても、商業施設や医療施設、例えばカラオケ店とかと提携してもいいと思うし、何かそういう新たな取り込みができないか。最終的に利用者を運ぶとして、一般の不特定多数だけではなくて、将来性を見据えて事業者にお金出してもらおうような形もぜひ開拓していただければと思う。より利用が増えて、色々な意見が出て多様なサービスも進化していくことを望みつつ、進めていただければと思う。

【報告③】 自動運転実証運行の取組状況について

中心市街地において実施した自動運動バスの実証運行の実証結果と今後の取組方針等について報告。

→事務局が資料5に基づき説明した。

(質問・意見)

【委員】 国土交通省鳥取運輸支局の大林委員に、自動運転の高い水準や全国の中で進んでいる事例等わかる範囲で紹介していただければ。

【委員(鳥取運輸支局)】 自動運転に関しては、レベルがあり、乗務員を乗せずに運行する方法がレベル4となる。レベル4で実際に運行している例として、現行ではある程度限られた閉鎖空間に近いようなところで、ゴルフカートのような低速で走るような形態で運行している。今鳥取市で実証しているような街中を実際に自動運転で運行する場合、乗務員を乗せるような運行で検証しているところが全国的に多い状況と聞いている。

【その他】鳥取市公共交通空白地有償運送運行管理体制の見直しについて

鳥取市公共交通空白地有償運送運行管理体制の見直しについて説明。

(質問・意見)

【委員(鳥取運輸支局)】自家用有償旅客運送では、基本的に運行管理は対面で点呼するとか、アルコールチェックを行うとか、そういう方法が望ましいとされており、それが難しい状況の場合には、遠隔での点呼等も可能となっているが、運行の安全というのが、第一である。人手不足により、ドライバーだけでなく管理者も不足している状況もあり、遠隔地でなければ点呼するのが難しいという状況もあると思うけれども、そういう合理化とか効率化だけではなく、やはり安全に運行できるかを第一に考えた上で、このようなデジタル化をして、確認をする方法を取り入れていくことで、運行支援の委託を実行していただくようお願いをしたいと思っている。委託を始めるにあたって、あくまでもその運行の責任というのは運行の主体にあり、丸投げして何をやっているかわからないというような話になるといけないので、どういった管理をして、どこまでが自分の責任で、どこまでを委託するのか、その辺りの責任の分担や、その他のところも、あらかじめ、よく協議しながら進めていっていただきたい。

→事務局が資料6に基づき説明した。

【その他】『地域公共交通のリ・デザインに向けて』について

鳥取運輸支局大林委員より最近変更された地域公共交通に関する諸制度の概要等について説明。

→鳥取運輸支局大林委員が資料7に基づき説明。

(質問・意見)

特になし